



10月4日決算特別委員会で
経済観光局へ質問

自民党吉田健吾が考える

神戸空港国際化に向けたインバウンド対応

吉田健吾が10月4日の神戸市会決算特別委員会で質問した神戸空港国際化に向けたインバウンド対応について、神戸市民からの疑問をインタビュー形式でわかりやすくお伝えします。

こんにちは、吉田さん！
先日の経済観光局での質問を拝見しました。
なぜ神戸空港国際化へ向けたインバウンド対応を取り上げたんですか？



吉田 今年7月に実施された関西3空港懇談会において、神戸空港の発着枠の拡大と国際チャーター便*の運航が認められました。現在、新ターミナルを建設中で、2025年春には新ターミナルが運用開始になり、既に大韓航空が神戸空港—仁川空港間に1日2便の国際チャーター便を運航することが発表されています。
神戸空港は滑走路が2500mと少し短く、離発着できる飛行機の航行距離が限られており、東アジア・東南アジアが就航可能と言われています。今まで神戸市には、台湾、韓国、中国、香港からの旅行者が多かったのですが、これからは、**シンガポールやマレーシアなどの東南アジア諸国からの旅行者を狙って、観光産業の底上げをするチャンス**だと考えています。

*国際チャーター便とは、旅行会社などが航空機を借り上げて運行する便のことです。航空会社が直接定期的に運行する定期便とは異なります。

神戸は今までインバウンド消費があまり盛り上がって
いなかったようにも
感じています。
これからどういった対策を検討していますか？



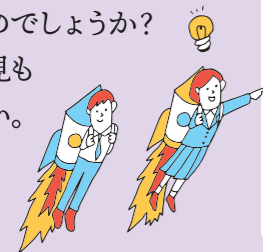
吉田 外国人旅行者数200万人を目指す神戸市と、既に1000万人以上の外国人が来る京都市や大阪市と比べると、圧倒的に量が少なく、盛り上がりには欠けると思われています。
もちろん、一定の量の拡大は目指しますが、神戸らしい姿を思い描くと、爆買いをする旅行者がたくさんいるというよりは、**ゆったりと過ごす外国旅行者が行き交うというイメージ**で、質の追求をしていくべきと考えます。先日の委員会でもお答えしましたが、ターゲットに効果的なプランニングが重要だと思います(中面参照ください)。

マレーシア、シンガポールを視察されたとのことですが、振り返られていかがでしたか？
現地の方たちは、特に神戸に対して
どういったことを期待されて
いましたか？



吉田 シンガポールは公用語が英語で、世界の研究やビジネスが集まっており、東南アジアのヒト・モノ・カネ・情報も集まっています。物価が日本より高く(日常のランチで2000~3000円)、旅行イコール海外旅行ということもあり、神戸に来てもらうことに大きな期待がもてます。
また、マレーシアについても、華人系の方々にとって、日本への旅行は身近で、一般的に有名な都市には行ったことがあるので、次は、他の人と違うところに行きたいというニーズがありました。「四季」「日本酒」「神戸ビーフ」「ゴルフ」「買い物」が両国とも共通のキーワードとして拾うことができました。
神戸空港へチャーター便で来る場合、コストだけを見ると閑空に定期便で行くよりは高くなってしまふことが予想されます。しかし、**神戸空港を使った外国人旅行者だけが、キーワードに特別感を付加させたコンテンツを利用できる**とすれば、確実に選ばれる空港になると思います。キーワードに特別感を付加させることも難しいところですが、できる提案は全部していこうと思います。

神戸空港の国際化はこれから
どういった展開を検討されている
のでしょうか？
吉田さんのご意見も
お聞かせください。



吉田 神戸空港は、今後、2025年国際チャーター便就航、そして、その後2030年をめどに国際定期便が就航するという流れになっています。現在決まっている国際便はチャーター便ですので、打ち切り判断は定期便に比べて早いというリスクがあります。今後、台湾、ベトナム、モンゴルなど、飛ぶのではないかとされていますが、あくまでチャーター便であるので、しっかりとした搭乗率がないと続きません。
また、**インバウンドもさることながらアウトバウンドにも力を入れたい**といけません。来やすい国、日本になっている昨今、海外に行く方をどう増やすか、日本人が行きたい国や地域との繋がり、あまり知られていない就航都市の魅力発信が重要になってきます。

ずっといっしょ。まっすぐ未来へ。

自由民主党神戸市議員団
神戸市議員 **灘区**

吉田健吾



10月2日
決算特別委員会で質問

神戸市政報告

灘区版

2024.11
vol.22

発行日 ● 令和6年11月20日
発行元 ● 自由民主党神戸市議員団・無所属の会
〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5-1
TEL078-322-5846 <http://www.jimin-kobe.com>

9月13日から10月24日の間、令和5年度決算を審議する議会がありました。決算は認定され、関連議案は可決されました。衆議院選挙や県知事選挙があり、私たちを取り巻く環境は変化をしていきますが、決算特別委員会では、神戸の子どもたちの成長、神戸空港の活性化や観光施策の充実と、初当選以来、その時その時の状況下で質疑や



提案をしてきたテーマになります。テーマは変わりませんが、内容は良い方向へ変化していていると感じています。詳しくは中面やインターネット上に記載をしておりますので、ご一読いただけましたら幸いです。

令和5年度神戸市の決算

決算総額:1兆8,533億3,700万円

一般会計 8,850億3,500万円

福祉、教育、道路・公園の整備など、市の基本的な事業を行う会計です。

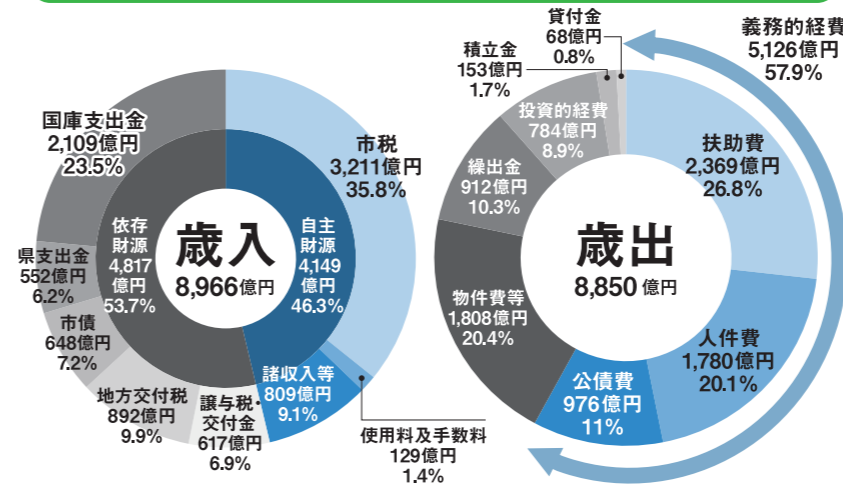
特別会計 6,731億8,600万円

国民健康保険や介護保険、市営住宅など、特定の収入で行う事業の会計です。

企業会計 2,951億1,600万円

バスや地下鉄、上下水道など、主に利用者のみなさんが支払う料金収入等で行う事業の会計です。

一般会計決算の状況



海と山が育むグローバル貢献都市の実現

市民1人あたりの行政コスト

一般会計の支出を市民一人あたりにすると

59万円になります

福祉の充実に 約25.9万円	教育・文化の振興に 約9.5万円	環境・衛生の向上に 約4.6万円
住宅・まちづくりに 約2.3万円	産業の振興に 約0.8万円	道路・公園等の整備に 約2.9万円
消防・救急に 約1.3万円	区役所などの運営に 約5.4万円	市債の返済に 約6.5万円

※令和6年3月31日時点の住民基本台帳に基づく人口1,494,661人で算出しています。

令和5年度会計決算ならびに関連議案について意見表明を行いました

10月11日に行われました決算特別委員会で意見表明があり、自由民主党神戸市議員団・無所属の会は、令和5年度神戸市各会計決算、及び関連議案合計24件について、引き続き神戸経済の成長や需要拡大に向け、様々な施策を積極的に実施していくことを期待して、要望を付して認定並びに承認しました。

要望事項(抜粋) ● 神戸空港国際化にともない、市内経済への効果が最大化するよう施策を展開すること。● こども本位のKOBE◆KATSUとなるように予算と人員を確保すること。他 合計20項目

10.2 教育委員会

委員会の
録画中継は
こちら▶  詳しい
議事録は
こちら▶ 

1. 部活動の地域移行について

10月2日
決算特別委員会にて質問▶

吉田健吾 教育委員会は、令和8年9月から中学校の部活動を地域のクラブ活動、「KOBE◆KATSU」へ移行する方針を示しました。教員の負担軽減や新種目の導入といったメリットを理解する一方で、地域の負担が増えるのではないかと、**教員と生徒との接点が減って悪影響が出ないか**心配しています。

また、部活動は子どもの非認知能力を育む大切な場であり、その価値が移行によって失われることがないようにすべきです。教員の負担軽減にはICTの活用が有効であり、授業動画などを導入することで、認知能力の基礎を効率的に教え、**教員が子どもたちにより寄り添う時間を増やすべき**ではないでしょうか。



**生徒との
接点減り
悪影響
出ないか？**



福本教育長・竹森学校教育部長・西川学校教育部長 地域全体で子どもたちを支える新しい形を目指して、多世代交流や地域活性化となる可能性も。部活動が果たしてきた教育的意義も重視しており、移行後もその価値を守りながら支援します。教員の負担軽減と生徒との交流時間捻出のためにもICTを積極的に活用して効率化し、教育の質向上をめざします。

2. 子どもの環境について

(1) GIGA端末の更新について

吉田健吾 GIGAスクール構想で使われている学習用端末は5年リースで来年度が更新タイミングです。現行の2in1端末は大変不便で、特に**操作性やカメラ機能の改善が必要**と考えます。



例えば、横浜市では小学生がタブレット、中学生がラップトップを使うなど柔軟な取り組みがあるため、神戸市も柔軟な視点で子どもたちに**より良い教育環境**を整えてほしいです。

高田事務局長 現在、先生や子どもたちの意見を取り入れながら次期末の検討を進めています。特に、処理性能や耐久性、持ち運びのしやすさ、カメラの画質向上といった点に注目して、制約も多いですが学習効果を高めるための端末導入を目指しています。

(2) 英語教育について

吉田健吾 グローバル化の進展で、日本語だけでは通用しない場面が増えてきました。**翻訳ツールも便利ですが、ビジネスや研究の現場ではスピード感が重要**です。



神戸市が子育てしたいまちであるためには、無償化よりも『このまちで育つ子どもはこう成長する』という理念が必要です。英語教育もその一環で、**モデル校を超えた特色ある学校**を指定し、全市的に英語教育を強化する必要があります。市内全体の英語教育水準を高めるため、より踏み込んだ施策を検討していただきたいです。

田尾教育次長 神戸市では国際都市の強みを活かし、昨年から英語教育を強化しています。ALTや地域の外国人を活用した体験プログラムも充実させ、実践的な英語力を育成中です。今後は、特色ある学校を指定し、先進的な取り組みを広げ、市全体の英語教育をさらに充実させていきます。

3. 中学校給食について



吉田健吾 中学校のランチボックス給食は現在衛生上、冷たいおかずが提供されていますが、おかずを全く食べない生徒がいると聞いています。

食育やSDGsの観点からも、全員喫食へ移行するまでの間に、冷たなくても美味しく食べられるメニューに改善すべきです。残食の多いメニューを見直し、**冷めても満足できる献立に工夫**を加えることが重要だと考えます。

山出学校支援部長 残食調査は令和2年度以降実施していませんが、毎年アンケートを基にメニュー改善を行っています。また、週1回程度の温かい給食の提供を続けつつ、冷めてもおいしく食べられる献立や調理方法の工夫にも引き続き取り組み、献立の充実を図ります。

10.4 経済観光局

委員会の
録画中継は
こちら▶  詳しい
議事録は
こちら▶ 

1. 神戸空港国際化に向けたインバウンド対応について

吉田健吾 神戸空港は**2025年から国際チャーター便の運航が始まり**、東アジアや東南アジアからの観光客が増えることが期待されています。特に大韓航空がすでに就航計画を発表しており、神戸空港がアジア各国からのインバウンド観光客の玄関口となるでしょう。この機会に、神戸ならではの観光コンテンツを強化することが重要です。



公園、秋の紅葉は相楽園など、季節ごとの自然の魅力を中心に押し出すことで、観光客を引き付けられるでしょう。

また、**灘五郷**の日本酒を楽しむ体験プランも考えられます。さらに、**神戸ビーフと六甲山牧場**を組み合わせた特別な体験のできるツアーや、ナイトタイムエコノミーの推進によって、神戸の魅力を最大限に引き出し、インバウンド観光の促進を図るべきです。

**神戸の魅力
最大限に
引き出す**

例えば、『神戸空港を利用した観光客限定の特別な旅行商品』を提供し、観光客がそのまま大阪や京都に流れず、神戸で滞在し消費活動をしてもらう工夫が必要です。具体的には、**神戸の四季を活かした観光戦略**が有効です。春の桜なら須磨離宮公園や再度

10月4日
決算特別委員会
にて質問

大畑局長・椿野農政担当局長・瀬合副局長・出石観光MICE担当部長 神戸空港の国際化はインバウンド誘客にとって大きなチャンスです。我々は、2025年までに海外からの宿泊者数を100万人に増やすことを目標に、受入れ環境の整備、観光コンテンツの磨き上げ、プロモーション強化を進めています。具体的には、神戸ビーフをテーマにした牧場見学やゴルフツーリズム、ガストロノミーツーリズムの推進を進めており、神戸での長期滞在を促す取り組みを強化しています。今後も神戸の魅力を引き出し、インバウンド誘客を進めます。

2. 六甲山上の活性化について



吉田健吾 神戸登山プロジェクトや「六甲ミーツ・アート」など様々な取組により、山上のにぎわいが生まれていますが、課題は自動車やバイクによる交通問題です。特に**走り屋の騒音や危険運転が、静かな観光地のイメージを損ねており、観光客の再訪意欲を削ぐ要因**となっています。

神戸登山プロジェクトや「六甲ミーツ・アート」など様々な取組により、山上のにぎわいが生まれていますが、課題は自動車やバイクによる交通問題です。特に走り屋の騒音や危険運転が、静かな観光地のイメージを損ねており、観光客の再訪意欲を削ぐ要因となっています。

これにより悪い口コミが広まり、他の観光客にも影響する恐れがあります。経済観光局がリーダーシップを取り、この問題に対応すべきと考えます。

大畑局長 六甲山上の走り屋による問題は、観光客の安全と快適な環境維持に大きな課題です。地域団体や行政と連携し、スピードセーブ工法や監視カメラの設置などの対策を進めています。引き続き、経済観光局としても積極的に取り組んでまいります。

3. 東部市場の今後について

吉田健吾 1969年に開設されてから55年が経ち、施設の老朽化が進んでいます。中央卸売市場本場の再整備が進む中、東部市場についても並行して再整備の検討を進め、**関西圏の物流を見据えた機能強化を図るべき**と考えます。また、駐車場の無断駐車の問題にも対応し、市場利用者が



安心して駐車できるよう対策を進めていただきたいと思います。

大畑局長・星島中央卸売市場運営本部長 東部市場の老朽化は課題であり、今後の再整備についても検討が必要です。駐車場の無断駐車については、警告文の貼付や従業員への指導を行い、一部強制排除も実施しています。引き続き事業者と連携し、対応を進めます。